
特 集：脳卒中・循環器病を防ぐために

脳卒中と循環器病克服5ヵ年計画

島 田 健 司

徳島大学病院脳神経外科

(令和4年8月1日受付)(令和4年8月5日受理)

はじめに

本邦では、国民皆保険制度の下、世界でトップレベルの長寿社会を実現した。団塊世代が後期高齢者に突入する2025年には65歳以上の人口が約30%に、75歳以上の人口が約18%に達し、団塊ジュニアが65歳を迎える2035年には、さらに高齢化率が上昇すると推測されている¹⁾。一方で、長寿社会の実現により、新たな医療問題が顕在化してきた。その第1は、平均寿命と健康寿命の乖離であり(図1)²⁾、第2は人口の高齢化に伴う医療費の増加である³⁾。

脳卒中・循環器病は、後期高齢者の死亡原因の第1位であり、また介護が必要となる主な原因の第1位である⁴⁾。さらに脳卒中・循環器病の医療費は全医療費の20%を占めている。今後の超高齢化社会に向けた医療改革を考えると、脳卒中・循環器病は緊急に取り組まなければならない最も重要な課題である。

以上の点から、脳卒中・循環器病の克服の重要性を周知する目的で、日本脳卒中学会、日本循環器学会をはじめとする21学会による「脳卒中と循環器病克服5ヵ年計画」が作成された。2016年から、団塊ジュニア世代が高齢者となる2035年までの20年間を展望し、4期にわたって5ヵ年計画が遂行される予定となった。すでに2016年度から2020年度にかけて第一次5ヵ年計画が遂行され、2021年度から2025年度までの第二次5ヵ年計画が策定されている。また、政策面でも脳卒中・循環器病の重要性が認識され、「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」(循環器病対策基本法)が2018年12月に成立し、2019年12月に施行された。本稿では、第一次5ヵ年計画の総括と第二次5ヵ年計画の概要を循環器病対策基本法とともに紹介する。

第一次5ヵ年計画の策定と施行

この計画の大目標は、1. 脳卒中と循環器病による年齢調整死亡率を5年間で5%、10年間で10%減少させること、2. 計画期間中の5年間で健康寿命を延伸させることの2つである。この目標達成に向けて、脳卒中、心不全及び血管病(急性心筋梗塞、大動脈解離、大動脈瘤破裂、末梢動脈疾患)を重要3疾病と位置付け、「人材育成」、「医療体制の充実」、「登録事業の促進」、「予防・国民への啓発」、「臨床・基礎研究の強化」を5戦略として事業が推進されることとなった(図2)。

日本脳卒中学会では、5ヵ年計画達成のために、5ヵ年計画実現化推進委員会、5事業毎のプロジェクトチーム、各都道府県における脳卒中対策推進委員会を設置した。また、5事業の中でもとりわけ重要度の高い「医療体制の充実」事業が重点的に推進された。脳卒中の医療供給体制を全国に均てん化すると同時に、脳卒中医療のセンター化と機能分担のための階層化を図ることを基本構想として、まず一次脳卒中センター(Primary Stroke Center:PSC)を制度化した。PSCは、週7日24時間体制で脳梗塞急性期患者に血栓溶解療法(rt-PA静注療法)が可能であることなどの諸要件を満たした施設で、日本脳卒中学会が認定する。二次医療圏を基盤に整備が進められた結果、2020年度984施設が認定され、全国に均てん化されている。徳島県でも10病院がPSCに認定されており、東部医療圏に7病院、南部医療圏に2病院、西部医療圏に1病院配置されている。その結果、日本全国で脳梗塞急性期患者が60分以内に血栓溶解療法を受けることができる地域は、島嶼部などを除く99%に達している。更に脳梗塞治療の進歩とともに治療効果の有効性が示された機械的血栓回収療法が24時間可能なPSCの中核となる施設(PSC core)の整備が進められている。また、「登録事業の促進」においては、全国のPSCに年

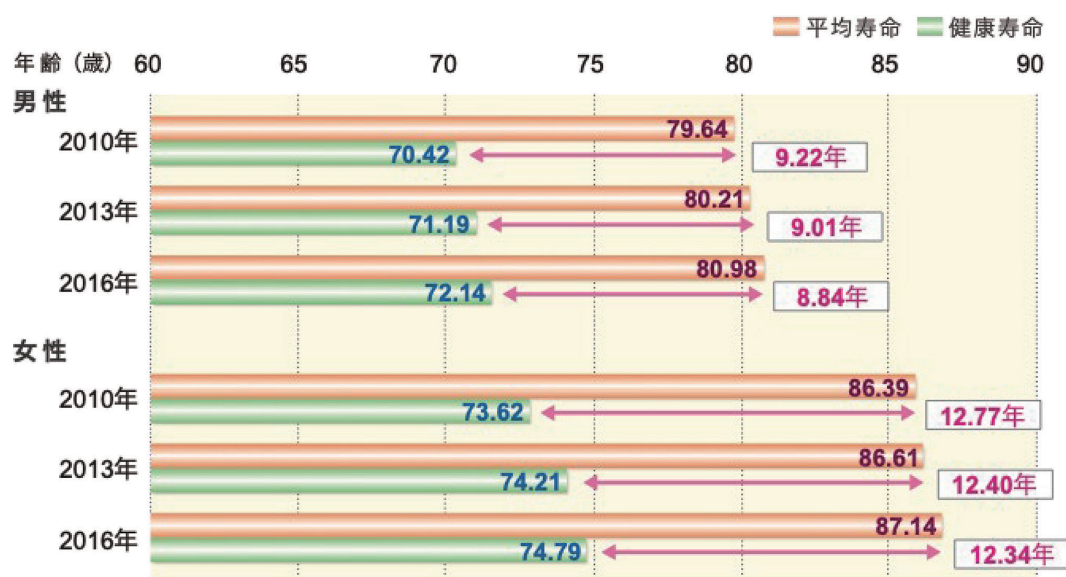


図1 平均寿命と健康寿命の差

出典：平均寿命は各年の簡易生命表（厚生労働省）

健康寿命は、厚生労働科学研究費補助金：健康寿命の算定・評価と延伸可能性の予測に関する研究-算定・評価方法の検討-（令和元年度文旦研究報告書）

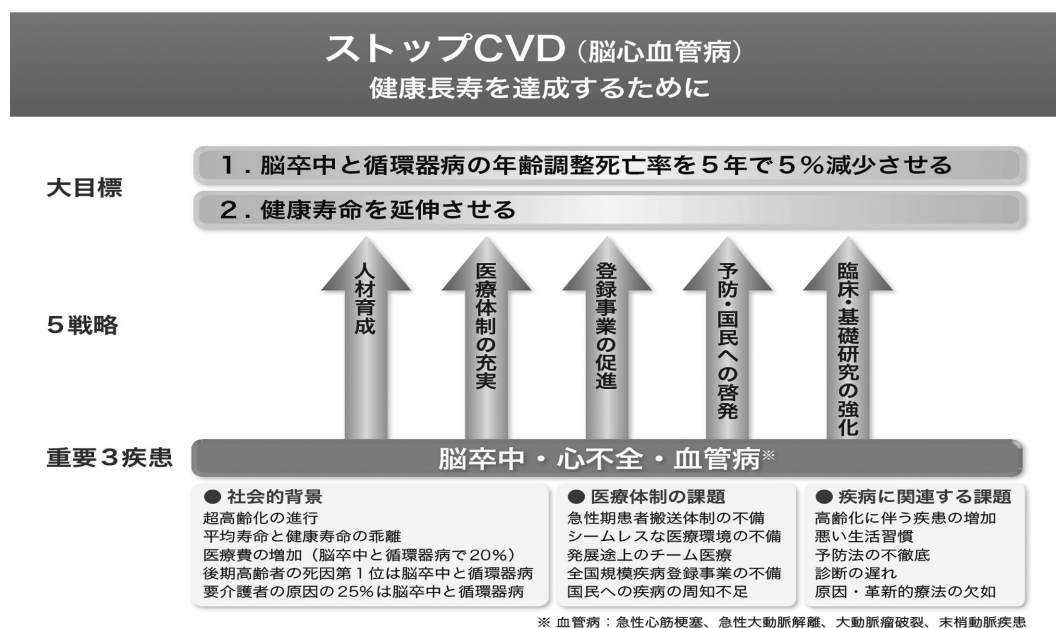
(<http://toukei.umin.jp/kenkoujyumu/houkoku/R1.pdf>)

図2 ストップCVD（脳心血管病）健康長寿を達成するために

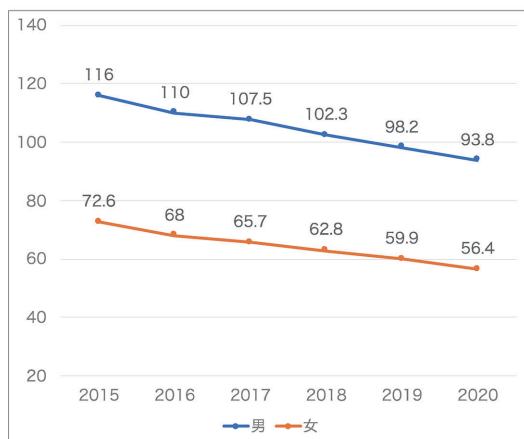
次診療実態調査票の提出を求め、悉皆性の高い脳卒中疫学データが得られるようになった。また、これらのデータを解析することが、PSC 認定病院の質の担保や、今後の医療計画策定の参考になるものと思われる。また、

「人材育成」においては、PSC 同様に、脳卒中学会の定める認定基準を満たした施設が、研修教育施設として認定され、脳卒中に関わる若手医師や医療専門職の人材育成の役割を担うこととなった。このように戦略事業に

脳血管疾患

男：5年間で19.1%減少

女：5年間で22.3%減少



心疾患（高血圧性を除く）

男：5年間で6.6%減少

女：5年間で14.3%減少

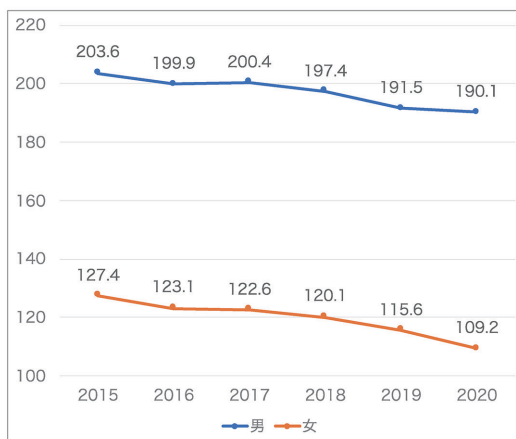


図3 年齢調整死亡率（人口10万人対）の推移
出典：厚生労働省（人口動態統計）

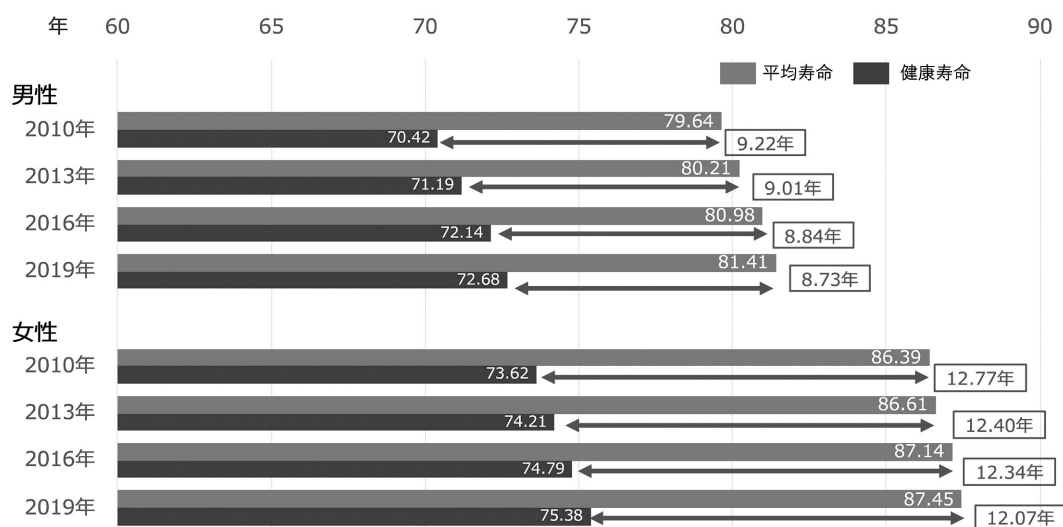


図4 平均寿命と健康寿命の差
出典：平均寿命は各年の簡易生命表（厚生労働省）
健康寿命は、厚生労働学研究費補助金：健康日本21（第二次）の総合的評価と次期健康づくり運動に向けた研究（令和3年度）

沿って計画が遂行された結果、喫緊の課題である「医療体制の充実」に関しては、急性期の医療体制がほぼ整備され、2つの大目標に関しても、5年間の年齢調整死亡率（人口10万対）は、脳卒中については男性で19.1%、

女性で22.3%減少し、心疾患については男性で6.6%、女性で14.3%減少しており（図3）⁵⁾、健康寿命も延伸が認められ（図4）²⁾、目標は達成された。

循環器病対策基本法の成立

脳卒中・循環器病の関連学会は、脳卒中・循環器病克服の目標を達成するためには、5ヵ年計画の遂行のみでなく、脳卒中・循環器病対策の枠組みとなる法律が必須であると考え、患者会・家族会、学会・職能団体、医療関係者、介護・社会福祉関係者など幅広い関係者とともに「脳卒中・循環器病対策基本法の成立を求める会」を結成し、働きかけを行ってきた。その結果、2018年12月に「健康寿命の延伸等を図るため脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」（循環器病対策基本法）が議員立法により国会で成立し、2019年12月1日に施行された。その後、同法に基づき厚生労働省に設置された循環器病対策推進協議会において、循環器病対策の総合的かつ計画的な推進を図るための循環器病対策推進基本計画の検討が進められ2020年10月に閣議決定された（図5）。循環器病対策推進基本計画では、「循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」、「保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実」及び「循環器病の研究推進」の3つの目標達成により「2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少」を目指すことを全体目標としており、5ヵ年計画

の目標とほぼ共通している。また、個別の施策も、5ヵ年計画に基づく事業と共通の目標をもつものが多く、同法の下で本5ヵ年計画がより円滑に遂行されることが期待される。

第二次5ヵ年計画の策定

第二次5ヵ年計画は基本的に第一次5ヵ年計画を継承し、大目標を次のように設定している。1. 脳卒中と循環器病による年齢調整死亡率を2020年に比較して5%減少させる。2. 計画期間中の5年間で健康寿命をさらに延伸させる。脳卒中・循環器病のなかで、本計画の大目標の達成に重要な脳卒中、心不全及び血管病（急性心筋梗塞、大動脈解離、大動脈瘤破裂、末梢動脈疾患）の3つを重要疾病に選定し、それぞれの課題整理と対応方針が検討された。これら3疾病の選定に当たっては、急性期・慢性期死亡率が高いこと、有病率が高いこと、急性期に救急医療体制が必要なこと、慢性期に機能障害を残し、急性期から慢性期、更には在宅医療へのシームレスな医療体制を必要とすることに着目し選定された。重要3疾病を克服するために必須の戦略として、第一次5ヵ

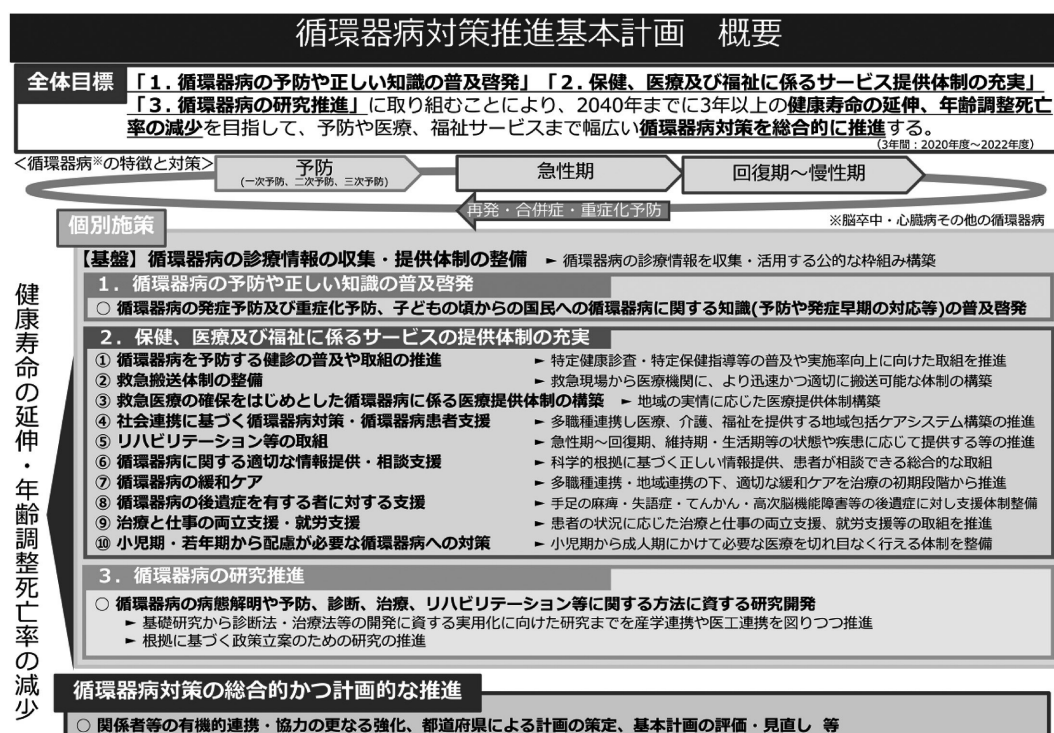


図5 循環器病対策推進基本計画概要

年計画同様、「人材育成」、「医療体制の充実」、「登録事業の促進」、「予防・国民への啓発」、「臨床・基礎研究の強化」の5つの戦略を掲げ、それぞれにプロジェクトチーム又はサブワーキンググループが組織され、企画立案、戦略の遂行にあたることとなった。

具体的には、特に重要度の高い「医療体制の充実」事業において、第一次5ヵ年計画の期間内に急性期医療体制がほぼ整備されたため、今回は急性期病院から回復期リハビリテーション病院や在宅介護へのシームレスな医療体制の整備へと課題がシフトすることとなった。そこでPSC coreの認定基準に、脳卒中患者及びその家族に対して、地域におけるリハビリテーション、介護、患者支援、保健福祉などの情報を提供できる「脳卒中相談窓口」を有すること、が付け加えられ、今年度より脳卒中学会からの委嘱方式ではなく、申請による認定方式となった。脳卒中相談窓口の構成員には、責任者と構成員①、構成員②が必須である。責任者は脳卒中専門医資格を持つ医師、構成員①は、常勤の脳卒中に精通した看護師（脳卒中認定看護師が望ましい）、常勤の医療ソーシャルワーカー（社会福祉士や精神保健福祉士）が各1名以上、構成員②は常勤の脳卒中療養相談士1名以上と定められている。

また、急性期医療体制のさらなる充実に向け、救急搬送体制の整備にも着手することとなった。効率よく血栓溶解療法や機械的血栓回収療法が必要な脳梗塞発症患者

がPSCやPSC coreへ搬送されるよう、徳島県においては、救急搬送中に病院前脳卒中スケールを用いて症状を点数化することで上記患者を選別し、さらにこれらの情報を、医療機関と救急隊との間で情報通信技術を活用して情報共有する試みが施行されている。

おわりに

第一次5ヵ年計画ではその計画が着実に実行され、目標を達成することができた。第二次5ヵ年計画ではその流れを継承し、計画が策定されたが、前回同様着実に実践されることが最重要事項となっている。また今回の結果を評価、改善することで、今後第三次、第四次と継続、実践することも重要である。

文 献

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口（平成29年推計）
- 2) 厚生労働省 健康日本21（第二次）推進専門委員会資料
- 3) 厚生労働省 平成30年度国民医療費の概況
- 4) 厚生労働省 令和元年（2019）人口動態統計（確定数）の概況
- 5) 厚生労働省 人口動態統計（確定数）の概況

Five-year plan against cerebrovascular and cardiovascular diseases

Kenji Shimada

Department of Neurosurgery, Tokushima University Hospital, Tokushima, Japan

SUMMARY

Cerebrovascular diseases including stroke and cardiovascular diseases are the leading causes of death among people more than 75 years old in Japan. The major causes of the need for long-term care in Japan are also cerebrovascular disease and cardiovascular disease, which together account for more than one-fifth of the total. Medical expenses for both cerebrovascular and cardiovascular diseases account for 20% of the total, which is the highest by injury/illness classification. Five-year plan against cerebrovascular and cardiovascular diseases were published for the purpose of notifying the importance of overcoming these diseases. The 2 main goals of the five-year plan against cerebrovascular disease and cardiovascular disease are to extend healthy life expectancy and to decrease age-adjusted mortality of cerebrovascular and cardiovascular diseases. The five-year plan against cerebrovascular disease and cardiovascular disease includes 5 major measures : developing human resources engaged in cerebrovascular and cardiovascular diseases ; enhancing service provision systems related to health, medical care, and welfare services ; promoting registration project regarding cerebrovascular and cardiovascular diseases ; spreading awareness of prevention measures and accurate information on cerebrovascular and cardiovascular diseases ; and promoting research on cerebrovascular and cardiovascular diseases. The measures are important for all patients, and all the promotions are needed to achieve the plan's goals. Here, we describe the outline of the five-year plan against cerebrovascular and cardiovascular diseases.

Key words : Five-year plan, Cerebrovascular disease, Cardiovascular disease, Healthy life expectancy, Age-adjusted mortality